

## 🌸 10月はピンクリボン月間です！

ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を伝えるシンボルです。乳がんの正しい知識と早期受診をアピールするために、皆さんご存知のように、東京タワー・東京スカイツリー・東京都庁、埼玉県でも大宮ソニックシティなど、著名な建物がピンク色にライトアップされています。今年は、当院もこの活動に賛同し、ライトアップすることにしました。乳がんは、日本の女性の中で罹患率が最も高いのですが、早期に発見すれば、生存率も高く治療する可能性が高いがんでもあります。ぜひこれを機に、ご自身の乳房に関心を持って頂き（ブレストアウェアネスと言います）、ご自身の乳がん検診を考えていただければと思います。

さて、乳がんの治療は、この1年で大きな変化がありました。一言で言うと、それぞれのがんにあった治療が明確化したことです。遺伝子変異からのアプローチができるようになってきたためと思われる。最も大きな診療内容変更点は、BRCA 遺伝子変異のある乳がん患者さんに、術後治療として PARP 阻害剤が使えるようになったことです。ルミナル\*あるいはトリプルネガティブ\*\*であり、かつ、BRCA 遺伝子変異がある場合、再発リスクが高ければ、リムパーザという分子標的治療薬が術後補助療法\*\*\*で使用可能になりました。BRCA は遺伝性乳がん卵巣癌症候群の主な原因となる遺伝子で、この遺伝子変異があると DNA に生じた傷を自分の力で修復できずがんが発生しやすくなると言われています。リムパーザは DNA の修復に関わるタンパク質「PARP」の働きを妨げる薬剤で、BRCA 遺伝子変異をもつがん細胞を標的として破壊する作用があります。今までは転移のある乳がんではしか使えなかったこのお薬が術後治療から使えるようになったことで、再発が減らせると期待されています。

今後も遺伝子的な観点からの治療法は進歩が期待されます。多くの患者さんに明るい未来が届けられると思います。

10月の川口の夜空にピンク色にライトアップされた川口市立医療センターが映し出されます。コロナの時代になって3年、うつむきがちではありますが、医療センターを見上げてください。皆さんの願いをピンク色に映し出しています。

ルミナルタイプ\*；ホルモン療法感受性の乳がん

トリプルネガティブタイプ\*\*；ホルモン感受性がなくハーツタンパクがないタイプの乳がん

術後補助療法\*\*\*；手術後に行うがんを治すための治療

